

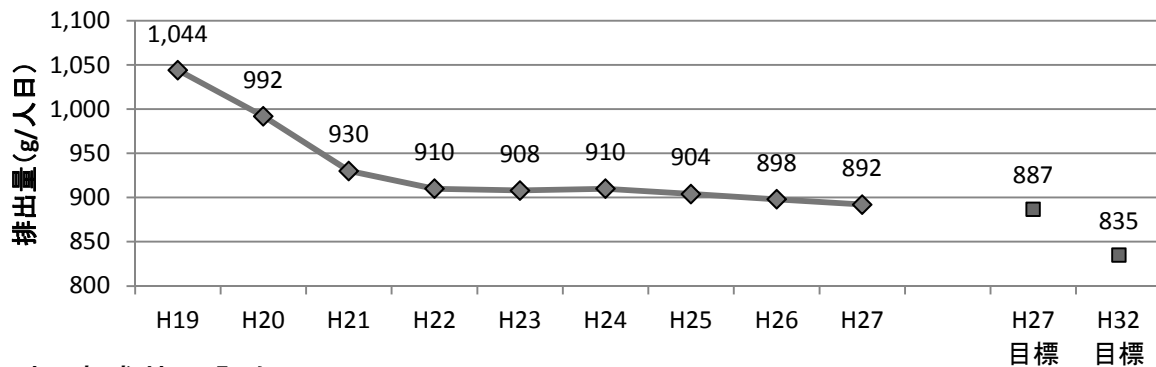
## 現計画の目標達成状況

## 1 一般廃棄物

## (1) 目標年度の状況

目標	実績		目標		達成状況(H27)
	平成19年度 基準年度	平成27年度 現状	平成27年度 (中間)	平成32年度 (最終)	
排出量	2,344千トン	1,966千トン <△16%>	2,032千トン <△13%>	1,937千トン <△17%>	○
1人1日あたりのごみ排出量	1,044g	892g <△15%>	887g <△15%>	835g <△20%>	△
再生利用率	16.7%	16.6%	23%	25%	×
最終処分量	340千トン	234千トン <△31%>	252千トン <△26%>	238千トン <△30%>	○
ごみ発電能力	79,450kW	105,324kW <+33%>	106,000kW <+33%>	127,000kW <+60%>	△

1人1日あたりのごみ排出量



## (2) 目標達成状況評価

## ①排出量、1人1日あたりのごみ排出量及び最終処分量(目標達成若しくは概ね達成)

市町での資源ごみの集団回収や店頭回収の促進などの取組、県によるレジ袋削減の啓発活動等で、1人1日あたりのごみ排出量が減少したと考えられる。その減少に伴い、排出量及び最終処分量も減少し、概ね目標を達成したと考えられる。

## ②再生利用率(目標未達成)

再生利用率向上に資する取組として、容器包装リサイクルや古紙再生利用の普及啓発を推進してきたが、再生利用率が横ばい傾向であるため、県民への更なる啓発が必要である。

## ③ごみ発電能力(概ね目標達成)

H27年度時点では、未達成であるが、施設の更新に合わせ、順調に導入は進んでおり、H28年7月には、クリーンパーク北但(2,850kW)が、H29年4月には、神戸市新港島クリーンセンター(15,200kW)が稼働開始し、H29年6月時点では中間目標を上回っている。

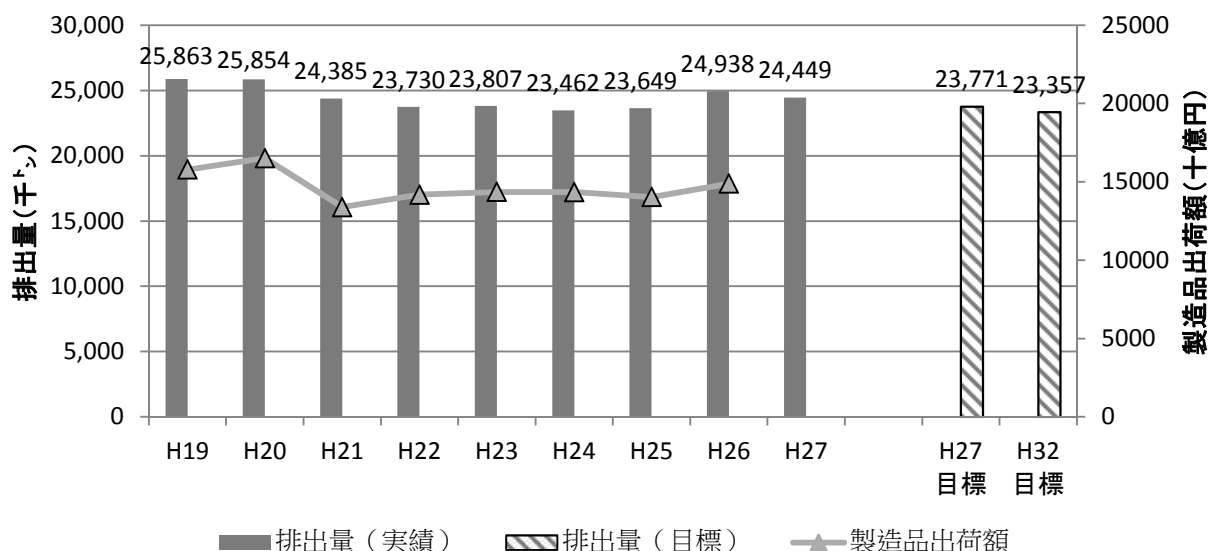
# 現計画の目標達成状況

## 2 産業廃棄物

### (1) 目標年度の状況

目標	実績		目標		達成状況(H27)
	平成19年度 基準年度	平成27年度 現状	平成27年度 (中間)	平成32年度 (最終)	
排出量	25,863千トン	24,449千トン <△5%>	23,771千トン <△8%>	23,357千トン <△10%>	×
再生利用率	41%	43%	45%	46%	△
最終処分量	1,191千トン	580千トン <△51%>	689千トン <△42%>	641千トン <△46%>	○

産業廃棄物排出量の推移



### (2) 目標達成状況評価

#### ① 排出量 (目標未達成)

現計画で、廃棄物処理法に基づく多量排出事業者に対して、減量化・再資源化計画の提出を義務づけるなどの取組を行ってきたが、平成20年に発生したリーマンショック以後の景気回復基調に応じて、排出量が増加する傾向があることから、目標値までの削減まで至らなかったと考えられる。

#### ② 再生利用率 (概ね目標達成)

現計画で掲げるコンクリート塊等の再資源化、建設発生木材のチップ化などの建設廃棄物再資源化などの取組などを行ってきたが、目標値までの再生利用に至らなかったと考えられる。

#### ③ 最終処分量 (目標達成)

排出量は、目標達成に至らなかったが、減量化や②で示した再生利用の取組等が浸透し、目標を達成したと考えられる。

# 一般廃棄物に関する目標設定の考え方

## 1 新たな目標設定の考え方

- 本計画の上位計画である第4次兵庫県環境基本計画で重点目標を定めていることから、本計画でも重点目標を設定する。
- 第4次環境基本計画では、重点目標として最終処分量の削減が掲げられていることから、本計画でも**最終処分量を重点目標として設定**する。
- 県民一人一人の削減努力を反映し、より意識を高めるため、現計画で定めている「1人1日あたりのごみ排出量」から事業系ごみ排出量及び資源ごみを除いた「**1人1日あたりの家庭系ごみ排出量**」を重点目標として設定する。

## 2 目標(案)

設定項目	実績		目標		＜参考＞ 国 基本方針	
	平成24年度 基準年度	平成27年度 現状	平成32年度 (中間目標)	平成37年度 (最終目標)	平成32年度 (目標)	
重点目標	1人1日あたりの家庭系ごみ排出量	525g/人日	507g/人日	485g/人日	466g/人日	500g/人日
	最終処分量	273千トン	234千トン <△14%>	196千トン <△28%>	185千トン <△32%>	△14%
目標	排出量	2,034千トン	1,966千トン <△3%>	1,789千トン <△12%>	1,705千トン <△16%>	△12%
	1人1日当たりの事業系ごみ排出量	305g/人日	304g/人日 <△0.3%>	266g/人日 <△13%>	241g/人日 <△21%>	—
	再生利用率	16.7%	16.6%	20%	22%	27%
	ごみ発電能力	102,445kW	105,324kW <+3%>	113,074kW <+10%>	118,124kW <+15%>	—

※< >内は、基準年度比の削減率

### 3 一般廃棄物に関する目標の立て方

#### (1) 将来の削減見込量(主なもの)

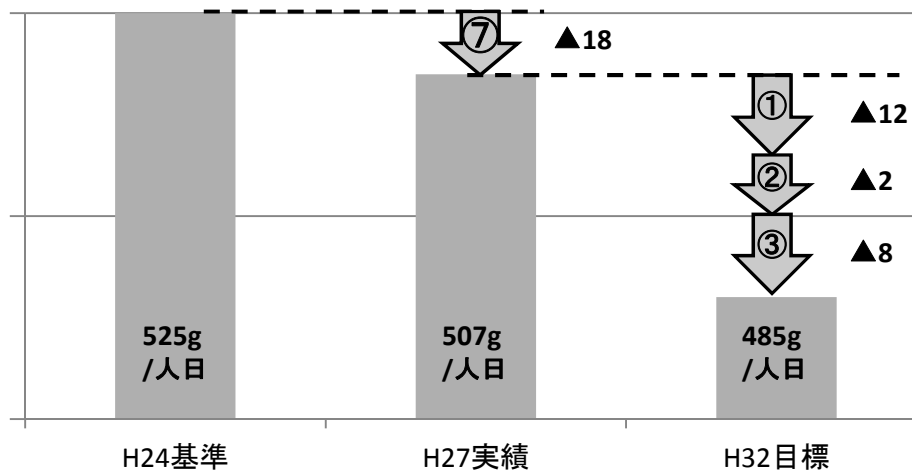
単位: 千トﾝ( )内は、1人1日当たりの削減量)

区分	対策の内容	推計結果					
		排出量		再生利用量		最終処分量	
		H32	H37	H32	H37	H32	H37
家庭系	①食品ロス等削減 普及啓発による削減(使いきり、食べきり、水切り等) (家庭分61g/人日(H26)→2割減49(H32)→1割減43(H37))	△24 (△12g)	△35 (△18g)	—	—	△1	△2
	②容器包装リサイクルの徹底による分別収集量増加 H32は分別収集計画の目標値に準拠し、H33～H37 の収集増加量は、H27～H32収集増加量と同等 (112千t(H27)→120(H32)→129(H37))	— (△2g)	— (△7g)	+8	+17	△1	△2
	③古紙の再生利用の推進 可燃ごみ中の資源紙(容リ除く)を5年毎に2割削減	— (△8g)	— (△16g)	+16	+32	△2	△3
事業系	④紙ごみの分別徹底 事業系可燃ごみに含まれる紙ごみ量をH27→H32で4割 削減、H32→H37で1割削減	△79	△99	—	—	△8	△10
	⑤食品ロス削減 3010運動等普及啓発により外食での食べ残しを5年毎に1割削減 (52千トﾝ(H24)→2割減42(H32)→1割減36(H37))	△10	△16	—	—	△1	△1
共通	⑥セメントリサイクルの実施 施設能力の最大限活用	—	—	+16	+16	△16	△16
	⑦現行対策済分 H24からH27にかけての削減量	— (△18g)	— (△18g)	—	—	△39	△39

#### (2) 目標設定方法

- i H24年度を基準年度に設定
- ii H27年度実績から人口減による減少分と(1)の削減見込み量を差し引き

1人1日当たりの家庭ごみ排出量 目標設定方法



# 産業廃棄物に関する目標設定の考え方

## 1 新たな目標設定の考え方

- 本計画の上位計画である第4次兵庫県環境基本計画で重点目標を定めていることから、本計画でも重点目標を設定する。
- 第4次環境基本計画では、重点目標として最終処分量の削減が掲げられていることから、本計画でも**最終処分量を重点目標として設定する**。

## 2 目標(案)

### 【目標設定の考え方】

追加で対策を実施しない場合の将来排出量(単純将来推計)から本計画での追加対策による削減量を目標値として設定する。

設定項目		実績		目標		＜参考＞ 国 基本方針
		平成24年度 基準年度	平成27年度 現状	平成32年度 (中間目標)	平成37年度 (最終目標)	平成32年度 (目標)
重点 目標	最終処分量	781千トン	580千トン <△26%>	571千トン <△27%>	560千トン <△28%>	△1%
目標	排出量	23,642千トン	24,449千トン <+4%>	24,562千トン <+4%>	24,618千トン <+4%>	+3%
	再生利用率 (汚泥除く)	69%	86%	86%	86%	—

※< >内は、基準年度比の削減率

### 3 産業廃棄物に関する目標の立て方

#### (1) 将来の削減見込量(主なもの)

対策の内容	推計結果					
	排出量		再生利用量		最終処分量	
	H32	H37	H32	H37	H32	H37
①建設廃棄物再資源化の徹底※1	—	—	+6千トﾝ	+13千トﾝ	△6千トﾝ	△13千トﾝ
②3Rの徹底による排出量削減※2	△54千トﾝ	△109千トﾝ	—	—	△6千トﾝ	△11千トﾝ
③対策実施済分 H24からH27にかけての削減量	—	—	—	—	△201千トﾝ	△201千トﾝ

※1 「兵庫県建設リサイクル推進計画2011」の計画目標である、「コンクリート塊」の概ね100%再資源化を達成するとされていることから、平成27年度時点での工事業からのガレキ発生量(再資源化率98%)のうち、H32年度時点で98.5%が、H37年度時点で99.0%が再資源化されると見込んだ。

※2 3Rの徹底により、サービス業からの排出量を5年毎に1割のペースで削減する。

#### (2) 目標設定方法

- i H24年度を基準年度に設定
- ii H27年度実績と排出量増加による増加分の和から(1)の削減見込量を差し引き